

研究課題 (テーマ)		睡眠時無呼吸症候群症状をきたす2型糖尿病患者の睡眠の実態と血糖コントロールとの関連-質問紙を用いて-	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学科	教授	片田 裕子
分担者	看護学科	准教授	比嘉 肖江
	看護学科	講師	若林 理恵子
	看護学科	助教	濱野 初恵
	看護学科	助教	福村 寛子
研究結果の概要			
<p>対象者は、糖尿病外来のある医療施設、2施設、2型糖尿病患者合計120名に郵送または手渡しにて配布した。有効回答は、そのうち115名であった。</p> <p>調査項目は、基本属性および血糖値を反映する検査データ(HbA1c・GA)、睡眠時無呼吸症候群の診断の有無と治療内容を調査した。さらに、睡眠時無呼吸症候群の問診として使用されるエプワース眠気尺度(Epworth sleepiness Scale)を用い、個人の睡眠の質の評価には自記式質問票日本語版ピッツバーグ睡眠調査票(PSQI-J)、生活の質(QOL)については、糖尿病特異的総合的QOL尺度を用いたアンケート質問紙を作成し患者自身の質問紙の返信をもって同意を得たと見なした。</p> <p>分析は、SPSSを用いてχ^2検定を行い、相関分析を行った。</p> <p>研究期間は、倫理審査承認後から令和2年3月31日である。</p> <p>データ収集は、各施設に出向き、全員で行い、分析、考察についても全員で遂行した。</p> <p>倫理的配慮は、大学倫理審査承認後に研究を開始し、人を対象とする研究倫理指針を遵守した。</p> <p>分析結果は、対象者の属性が男性73名、女性42名、糖尿病歴では10年以上が64名と60%近く、治療中の疾患では高血圧が53名と46%と多かった。エプワース眠気尺度の得点は、11点以上が13%であり、ピッツバーグ睡眠調査では、6点以上が48%であった。SAS診断を受けた患者は、24%であった。HbA1c値とエプワース眠気尺度得点、ピッツバーグ睡眠調査、SAS診断との相関では、HbA1c値とSAS診断が$P<0.01$であった。その他については、有意な相関は得られなかった。今回の結果から慢性期看護学の講義科目、4年次選択科目の糖尿病看護論では、2型糖尿病患者の睡眠時無呼吸症候群と血糖値の実態、睡眠の状態の実際について教授し、学生と共に今後の慢性疾患である糖尿病に対する看護について考察できると考える。</p>			
今後の展開			
<p>結果の洗練化を行い、データ収集施設への報告を行う。また文献を用い考察を行い、論文化し、看護学系雑誌に投稿する予定である。加えて睡眠時無呼吸症候群症状をきたす患者の血糖コントロールに対する看護の示唆を得るべく、実践的視点での次段階の研究を検討する。</p>			